

令和５年度第２回北区おたがいさま地域創生会議 会議録

１ 開催日時 令和６年３月１８日（月）午後３時３０分～午後５時３２分

２ 開催場所 北とぴあ ７Ｆ 第一研修室

- ３ 議 事
- １．高齢者あんしんセンターにおける活動状況
 - （１）令和５年度 地域ケア個別会議 開催状況について
 - ２．第１層生活支援コーディネーター活動状況
 - （１）令和５年度 第１層生活支援コーディネーターの活動報告について
 - （２）令和５年度 ３圏域地域包括ケア連絡会報告について
 - ３．その他

４ 出席委員

藤原佳典会長	碓井 亘委員	前田 茂委員
阿藤 護委員	荒川正代委員	平井孝明委員
小松栄美子委員	大場栄作委員	ト部吉文委員
熊木慶子委員	小原宗一委員	村野重成委員
尾本光祥委員	寺田雅夫委員	

【事務局】

皆様、こんにちは。それでは定刻となりましたので、ただいまから東京都北区おたがいさま地域創生会議の令和５年度第２回会議を開催いたします。

それでは、資料の確認をさせていただきます。事前に資料の１から５－３まで、送付をさせていただいてございます。本日、お手元にご用意ない方、もしくは不足がございましたらば、事務局のほうにお知らせいただければと思います。

皆様、よろしいでしょうか。

それでは、ここからの議事進行につきましては会長、どうぞよろしくお願いいたします。

【会長】

ありがとうございます。皆様、前半の会議からご出席の皆様はお疲れさまでございます。また、今年度最後の会議、おたがいさま地域創生会議ですので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速議題に入りたいと思います。

まず、高齢者あんしんセンターにおける活動状況について、（１）令和５年度地域ケア個別会議開催状況について、事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】

資料３、令和５年度地域ケア個別会議開催状況についての資料でご説明をさせていただきます。地域ケア個別会議については、多職種協働によって幾つかの役割、機能を持たせて開催をしております。

①個別ケースの支援内容についての検討、②自立支援に資するケアマネジメントの支援や支援ネットワークの構築、③地域課題について把握・検討を行います。

個別会議で把握された地域課題については、各高齢者あんしんセンターの活動の中で把握されている課題と合わせて、日常生活圏域における共通課題として、課題解決に向けて検討を行っております。

三層の地域ケア会議になっている中の、地域ケア個別会議について、ご説明をいたします。

１、地域ケア個別会議の種類です。個別会議には、今２種類、高齢者あんしんセンターのほうに取り組んでいただいております。

１種類目が、通常地域ケア個別会議です。１事例について６０分から９０分、地域

住民の方にも可能な限り参加をしていただいて、検討を行っております。各高齢者あんしんセンターでは、2事例以上の個別会議に取り組んでいただくこととしています。

二つ目の種類ですが、介護予防のための地域ケア個別会議というものです。こちらは1事例45分程度で、多職種専門職で検討を行っております。

黒ポチ、四つありますけれども、検討する事例については二つ目のポチのところ、要支援認定者および事業対象者としています。各高齢者あんしんセンターで1事例ずつ取り組んでいただきますので、16事例としております。

事例の提供に関しては、居宅介護支援事業所および高齢者あんしんセンターのケアプランを担当されている方です。こちらは参加するメンバーは専門職として、助言者、主任ケアマネジャーさん、理学療法士さん、こちらは作業療法士、言語療法士となる場合もあります。それと管理栄養士さん、訪問看護師さんとなっております。

2番、開催実績です。全体とありますのは、1個目の(1)(2)は両方の会議を合わせたの件数を挙げております。

(1) 件数。令和5年度2月末時点で、全部で36事例の検討を行っております。そのうち介護予防の検討が16になります。

(2) 事例の世帯状況、認知症の有無です。例年同様なんですけれども、独居の方の事例がほとんどを占めるような状況になっております。独居の方の右側のほうを見ていただいて、認知症の有無ですが、介護予防の地域ケア会議が始まったということもあって、独居で認知症ありのほうが今年度は割合が少なくなっています。そのほかは高齢者のみの世帯、配偶者、お子さんとの同居といった複数人の世帯構成の方が、少しずつあります。

(3) に参加していただいている居宅支援事業所数を入れました。こちらはいずれの会議での事例提供、それと助言者として参加していただいたケアマネさんと、傍聴で参加していただいたケアマネさんの事業所の数を計上しております。全部で38事業所ありました。

3番に、会議で挙げられた課題と取り組みについてというものを挙げています。

取組については、今後こういうことが、検討が必要ではないかという内容、それと、こういうものがあつたらいいなというような、ちょっと期待も含めた内容を記載しております。

地域ケア個別会議のほうから挙げた事例としては、ちょっとページが分かれてしま

って申し訳ないんですけど、一つ目には孤立、地域のつながりや見守りが必要ではないかということ。ちょっと裏面に行っていただきまして、二つ目に地域の活動の場をつくること、あるいは既にある活動へどうつないでいくかといったことが課題としてまとめてみました。

3番、③訪問系のインフォーマルサービスサポートについて、④その他というふうにしました。

1 ページ目、表の面のほうに戻っていただきまして、孤立に関して、地域ケア個別会議は、地域の中でのなかなか生活が困難なケースを検討する場合が多くて、これを見守っているとか、何とか関わりをつくろうとするけれども難しいといったような事例が多かったです。その中では、やはり民生委員さんですとか、ケアマネさんですとか、守秘義務を踏まえて、その人の支援を検討するというパターンが多かったりです。その中では、やはりケアマネさんが抱え込んでしまっているというような、どんなふうに地域の方とつながっていくか分からないでいたり、あるいはなかなかつながることも難しいという事例が多くて、左側のほうの「見守る人が孤立しないサポート体制づくり」という言葉でまとめてみました。

その下の四角枠についても同様です。ケアマネさんとか、ヘルパー事業所とか、関わる機関が業務を超えて対応されているというような事例も多くありました。

裏面に行ってください。

②の地域の活動づくり・活動へのつながりということで、今回特徴的だったと思うのが、提供いただいた事例の中で、知的障害があったり、それから、認知症ではないけれども高次脳機能障害かなと思われるような、なかなか地域の中に溶け込めないという特性を持ちの方の事例等もありまして、門とか扉を開けて入っていくのは難しいので、何かふらっと立ち寄れるような場みたいなものが必要なのかなというような課題が挙がりました。

永遠に挙がっています男性の居場所づくりですとか、地域の中にたくさん活動はあるけれども、意外と住民の方に知られてないなというような課題も挙がりました。

何とか歩行用具、歩行器を使えば歩けるんだけれども、バスに乗ってどこか買い物に行ったりとか、したいことをしに行くというのが、意外と難しいというようなことが課題に挙がりました。

それらの課題の解決の方向性というのが、具体的にじゃあこれをしましょうというの

は難しいんですけれども、今やっている活動を何とか情報発信、見える化していくことというのは、着手している部分もあるんですけれども、引き続き充実が必要かなというふうに感じました。

③訪問系のインフォーマルサービスについては、なかなか意欲が湧かない、外に出て行きづらいという動機をつかむのが難しい方が多く、一時期ありましたお弁当ご一緒サービスですとか、傾聴ボランティアによる訪問などといったようなことも何か少し情報収集したりとか、協力していけたらいいのかなというふうに思い書いてみました。

④その他のところ、先ほどの地域包括運協のほうでも少し出ていたんですけれども、外国人高齢者が増えていくことへの対応。今回も中国語を話す方についての支援についてが、支援の事例がありました。

それと認知症の初期の段階で、ご本人とか周囲の人が早めに気づけるような環境づくりがもっと進むといいよねというようなご意見もありました。

(2) 介護予防のための地域ケア個別会議のほうで挙げられた課題を2点にまとめてみました。

1点目が栄養・歯科相談ができる先の情報。こちらが、やっぱりこういった専門職の方々に気軽に相談できるというような状況にない、あるいは情報を知らないというようなことが会議の中で話題になりました。その個別会議に参加している栄養士さんとかの助言、それから意見交換などというのは、非常に私たちのアセスメントにも役立つなというふうに感じますので、それを何とか情報として、まとめていけたらいいなと思っています。

②すでにある事業へのつなぎ。挙げていただいた事例で、デイサービス等利用しているんだけど、もうちょっと生活の活性、活動状況を上げたいなというような事例がありました。既にある事業として、通所型短期集中予防サービス事業などもあるので、それらを利用していただけるように、今後高齢者あんしんセンターとか私どもで進めていけたらいいなと思います。

それと最後の欄です。事例として挙げられたご本人が軽度認知症とか、MC I の状況なのかなという方を介護している家族の方への支援というのも、課題の中に挙がりました。

私からは以上です。

【会長】

ありがとうございます。地域ケア個別会議の開催状況について、ご説明いただきました。ご意見、ご質問おあり委員の皆様、いかがでしょうか。

ちょっと、私のほうから確認というか、お尋ねしたかったんですが。

今回、資料3-1の(1)で地域ケア個別会議と、(2)が介護予防のための地域ケア個別会議と、この2本立てになっているということで、両方対象は要支援とか事業対象者という、ちょっと元気なときよりはレベルが落ちている方を対象というふうにお見受けしているんですが、一般にフレイルな方とか要支援の方で、もちろん生活の機能が落ちているというところでは介護予防の対象にもなりますし、逆に生活の機能が落ちているということは生活支援の対象にもなると思うんですね。この辺り、あえて(1)は従来の生活支援へのサポートの会議なのか、(2)は完全に同じ落ちている方でも介護予防という健康面でのサポートをテーマにされているのか。何か、結構重複する部分もあるのかなと思うんですけど、その辺りの役割分担というのはどういうふうに考えたらよろしいでしょうか。

【事務局】

(1)の地域ケア個別会議については、要介護認定、要支援認定の種別はないです。ないですが、やはり事例を提供するケアマネジャーさんが困っていることだったり、あるいは高齢者あんしんセンターが困っていることだったり、そういった少し解決に課題が多いなという事例が挙げられている状態です。なので、独居でしたりとか、高齢だけの課題ではない、障害を抱えていたり、障害のある高齢者だったりとか、あと地域の中で孤立しがちな方というイメージ図になります。なので、生活支援という手前の段階の、どのようにこの方々にも関わりを持っていただければいいかというような、ケアマネジメントなのか、ソーシャルワークなのか、そういった話題が多いかなと思います。

(2)の介護予防のための地域ケア個別会議に関しては、これは要支援認定あるいは事業対象者という軽度の方を対象にしております。本格的に始めたところでして、なるべく自立支援、重度化防止につながる視点を持った事例を今、高齢者あんしんセンターのほうで、提供していただく支援をしていただいておりますので、お話をする内容としてはもう少し、その人の生活上動作でしたりとか、地域へのつながりという情報のほうが多いかなと思います。

【会長】

ということは、先ほど申しましたような、例えば買物難民みたいな生活支援でも、本人が足腰が弱って買物に行けないとか、いろいろ認知の機能が少し落ちて買物に行けないというような場合も、これは（２）の広い意味で介護予防のほうで対応されるというのは、そういう認識なんでしょうか。体力アップだけではなくて、その方の、生活機能が落ちた方の生活の支援の部分も、介護予防の（２）のほうで検討するという、そういう理解になりますでしょうか。

【事務局】

どちらも、その機能は持っているかと思いますが、先生がおっしゃるように、介護予防のための地域ケア個別会議のほうが、インフォーマルサポートサービス以外の居場所とか、地域のコミュニティにどうつながっていただけるかといったことを話題にしています。

【会長】

ありがとうございます。ちょっとそこを確認したかったのは、よくいわゆるちょっと縦割りの考え方で、介護予防の検討とか、介護予防の対応グループというと、もう本当に身体機能だけとか、心身機能だけにターゲットを絞って、実際そういう方は本来日常生活でもいろいろ生活機能が落ちていきますので、ご不自由がある。本来生活の支援も一緒に考えていかないといけない部分があるかと思うんですが、そこはちょっと分断されると、全人的にちょっとこの方を見ることができないので、そこは看板は介護予防でもいいかと思うんですけども、本来は介護予防と中ポチの生活支援というような意味での会議だということを、参加者の方と共有していただくというのが大事なかなと思いました。以上です。

ほかはいかがでしょうか。

委員、お願いします。

【委員】

地域ケア個別会議でのご報告、特にこの３番の会議で挙げられた課題・取組の点での分かりやすいご説明、ありがとうございました。

この点で、第９期の計画案のところと重ねて、ちょっと感想とかご意見いただければと思っているんですが、本来第９期の案の中には各分野の連携した支援体制、つまり重層型支援を進めていくという部分で、文言として、引きこもり支援やヤングケアラーの

ことが取り上げられています。今回、出されている36の中で、そういったヤングケアラーとかダブルケアまたはというところでは、ここから登場していないのかもしれませんが、実際この点が今後より私たち支援者側がやっていく、行政の皆さんが横断的に取り組んでいくという部分から、たとえ件数、数が少ないとしても、そういうところに光を当てて、どう私たちがそちらの視点からやっていくかところでの学びは、ぜひと思っているんですけれど。よく、包括さんのほうで事例を取り上げて・・・、何か今後の取組で、今の第9期のヤングケアラーの課題との絡みで、こんなふうなことができればなとも、ありましたらお話いただける範囲でお願いします。

【会長】

事務局、お願いいたします。

【事務局】

今、ご質問のありましたヤングケアラーの案件につきましては、現在所管課を中心に、連絡会を開催しています。各高齢者あんしんセンターで、ヤングケアラーと思われる方の事例を高齢福祉課に情報として挙げていただきまして、こちらである程度集約をして、所管課と情報交換して、実際に先刻1件、関係各所で連携をしまして、解決に一応結びついたというか、解消にかなり進んでいったというような経緯もございます。

何分、ヤングケアラーという方というのがなかなか見えづらいものとか、あるいは報告して挙げづらいものだったりもしますので、この点については広くケアマネジャーさん、あるいは介護をされている方々から広く情報を頂戴した上で、各あんしんセンター、ひいては高齢福祉課、さらには関係各所にお話をいただくというふうな段取りで、今、連絡会の継続開催を実施しておるところです。

高齢福祉課の部分としましては、基本的に介護サービスをメインに、ヤングケアラーの被介護者と申しますか、そちらの方のサービスをある程度きっちり展開していくことで、ひいてはヤングケアラーの立場の方のご負担を減らしていくというふうな解決方法になっていくかというところで、今進めているところでございます。ですので、引き続きご対応される中で、そういうヤングケアラーではないかというふうなお話がございましたら、ぜひ高齢者あんしんセンターもしくは高齢福祉課にご連絡を頂戴できればと思います。よろしくお願いいたします。

【会長】

ありがとうございます。

【事務局】

補足をさせていただきます。今、ヤングケアラーにつきましては会議体を設けてということで話がありましたけれども、その他、ひきこもりやダブルケア問題につきましても、関係課と連携をしながら、庁内では様々な情報交換をしているところでございますので、引き続きそういった事例が分かりましたらば、ご連絡のほうをいただければというふうに思っております。

以上でございます。

【会長】

委員、お願いします。

【委員】

1 ページ目の開催実績の中の事例の世帯状況、認知症の有無の中で、独居の方で認知症が大分減ってきたよ、これは9人ということでございますけれども、これがなぜ独居の中でこうやって減ってきたのかというのが一点。

それから次のページの中で、3番目の訪問系のインフォーマルサービスの中の訪問による傾聴ボランティア、要はこれは認知の方かというと、訪問をして、傾聴するのがボランティア、普通のボランティアでいいのか。それとも、やはりその辺は守秘義務に絡んでくるので、民生委員ではなくちゃいけないのかどうかというのは、ちょっと思うんですけれども、この辺どうでしょうかね。

すみません、変な質問で。

【会長】

事務局いかがでしょうか。まず、独居の方の内訳で、認知症ありが9にちょっと減ったというところの理由に関してということです。

【事務局】

取り上げた事例の世帯状況、独居で認知症ありという方が今年度は全体の割合からすると少なかったんですけれども、減ってきたというよりは出していただいた事例の方が、ほかの分類だった。ちょっと私の中では、今年はいつもと違うなと思ったのは、高齢者ご自身が高次脳機能障害があったり、認知症ではないけれども、知的な力が少し弱い、低めというんですかね。そういうものがあるかなという、もともと持ち合わせた特性が認知症ではなかったという方が多かったという印象です。これは今年度の傾向ということで、ご理解いただければと思います。

2点目につきましては、訪問による傾聴ボランティアですが、確かにおっしゃるとおり、ボランティアでどこまで対応できるかというのは考えていかなければいけない部分かなというふうに思っております。今、訪問による傾聴ボランティアさんの制度としてはないので、民生委員さんの一人暮らし定期訪問ですとか、あるいは町会の方とか、身近な住民の方がたくさん聞いていただいていることもあろうかと思います。そういった、ちょっと何かお手伝いしてもいいなと思う方々を発掘していくというのも、課題の一つだなというふうには思っております。傾聴の勉強されているボランティアさんもしゃるので、どんな活躍の場がつくっていただけるのかなということも併せて考えていきたいなと思ひまして、挙げてみました。

以上です。

【会長】

ありがとうございます。本当に非常に大事なポイントで傾聴ボランティアに限らず、例えば認知症・・・接するようなボランティアさんであっても、やっぱり守秘義務というのは当然でしょうし、その辺りは多分社協さんですとか、ボランティアセンターの役割のところなんかできっちり研修といいますか、その辺は徹底されているかと思いますが、その辺り、また新しく入ってこられるような方にはしっかり研修していただくということをお願いしたいと思います。

ほかはいかがでしょうか。

員、お願いします。

【委員】

活動団体として（１）の②、立ち寄れる場づくりとか、男性の居場所づくり、地域内の活動はあるけれども知られていない、この辺りは僕らの活動がドンピシャで当てはまるかなと思っています。

自分たちの活動を立ち上げたときの経験なんですが、もともと地域で子どもたちとベーゴマを始めたのが、近所のおじいちゃんがすごい上手だったんですよ。そのときに鳥肌が立つぐらいかっこよかったです。そのおじいちゃんが地域で心の底からかっこいいって尊敬される場面って、正直なかなか子どもたちからするとないじゃないですか。これはいいんじゃないかと思って、公園で始めたんですね。毎月、月に１回活動して、地域の人に知ってもらおうと思って、区の掲示板が公園の周りにあるんですけれども、その掲示板に貼らせてくれと自治会長さんをお願いして、貼らせてもらったんですけど、

自治会の中にもいろんな方がいらっしゃるので、掲示板の担当の方がトップダウンで言われたのがちょっと気に入らなかったのか分かんないんですけど、すぐに活動が終わったら剥がせと言われていたんですが、やっぱ剥がし忘れちゃうこととかあるので、そのうち活動する前にも剥がされちゃったりとかして、ちょっと関係性があまりよろしくなくなってしまったので、もうちょっと掲示板に貼るのは諦めようということがあって、うちは諦めて、インターネットで告知したりとかということをするようにしていたんですけども、あとは小学校で活動させていただいたりとかしていたんですが、やっぱり、できれば僕の中では初心に戻るとやっぱり地域の高齢者の方と、地域の小学生とかが顔見知りになってほしいというのがすごく強かったんですね。

ただ、それが自分の地元ではそれが実現できなかったということがありまして、やっぱり僕たちみたいに社協の活動団体として登録していても、なかなか地元の方に知っていただく機会というのがなくて、そこでいつもやっぱり掲示板に貼れたらすごく知ってもらえるのにな、地域の方に知ってもらうには掲示板が一番早いんだよなということをして、やっぱり戻ってきてしまっていて、僕の場合はそれができていないんですけども。でも、その地域、その地域、近くでやっている活動というのが、例えば足を運んで行くようなタイプの活動団体のところを、何分割すればいいのか分からないですけども、例えば赤羽エリアでこんなのがありますよというのが一覧になっているものが、区の掲示板に一年中貼られているとかということがあったとしても、ちょっと囲碁やっているんだったら行ってみようかなとか、何か、そういうふうにはベーゴマが懐かしいからやってみようかなとか思ってもらえるような、その高齢者が認知しやすい掲示とかというものが何かできたらいいのかなというふうにはちょっと感じたので、言わせていただきました。

ありがとうございます。

【会長】

せっかくの社会活動、市民活動、区民活動やっというものは、ものの告知の仕方というようにことだと思えるんですが。事務局、いかがでしょうか。

【事務局】

確かに高齢者の方に対しては、インターネットとかSNSを使うというのは、なかなか難しい部分もあると思っております、掲示板は有効的なものというふうに思っております。とは言いましても区の掲示板、様々な機関から様々なものを貼るということで、制限もたくさんあるというところがございしますが、町会・自治会さんと連携がうま

くできたりとか、また場合によりましてはあんしんセンターとか、区の関係機関とかを通して、通じてであれば貼りやすいという場合もございますのでご相談いただければと思っております。

【会長】

ありがとうございます。これは何かそういう町会・自治会さんのお立場で区民の方の活動の掲示の仕方とかありますでしょうか。

【委員】

うちの場合は割合、掲示をしていいか、させてもらいたいという事前の連絡が入るんですね。僕のほうは遠慮なく貼ってくださいというような状況で今、進めております。やはり地域のコミュニケーションが一番大事なので、これはもう大事、大切なことですよ、本当に。

【委員】

皆さん、そう言っていただけで。

【藤原会長】

議事録にしっかり書いておいていただきたく、ありがとうございます。

委員、お願いいたします。

【委員】

民生委員でございます。

2番の介護予防のための地域ケア個別会議というところで、栄養、歯科相談ができる先の情報というのがありますけれども、民生委員だけでなく、町会と一緒にやっている見守りサロンという介護保険課の事業なんでしょうか。そちらは私どもの町会でも、民生委員と連携いたしまして、一緒に10年間、今年で10年目を迎えました。見守りサロンというのを、年に2回、3回やっておりまして、そのところで1回は必ず、近くの歯医者さんの先生、内科の先生、あと整骨院の先生とか。あと先立って先月ですが栄養士の先生をお願いいたしまして、栄養相談をいたしました。そういう、小さいところから、なるべく近くでそういう先生がいらっしゃるということの紹介とかも、やっていくと広がっていくのかなと思います。

以上です。

【会長】

ありがとうございます。

特に事務局、よろしいでしょうか。

【事務局】

来年度からなんですけど、新たに見守りと高齢者の高齢者の見守りと、食事提供、あとちょっとした体操とか、栄養講座などをやっていただく団体に対して、新たに補助金を出す制度、東京都のほうで始まった制度なんですけど、そちらを都のほうでも実施する予定です。その中で、今、委員からご指摘がありました、栄養講座をしたいとか、あと体操の活動をしたいという団体に、区内のそういった活動をしている方々を、何とかご紹介できるような一覧みたいなのが作れないかということで今検討しております、長寿支援課のほうで町会・自治会様向けに見守りの活動を支援しておりますので、一緒にご案内できるような体制を整えてまいりたいと思っております。

【会長】

委員、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、プログラムがまだまだありますので、ひとまず先へ進ませていただきたいと思います。

まずは（２）の令和５年度第１層生活支援コーディネーターの活動報告に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは社会福祉協議会の委員からご説明をお願いいたします。

【委員】

北区社会福祉協議会で、第１層生活支援コーディネーターをやっております。よろしくをお願いいたします。

今回、私のほうから、第１層及び２層の活動報告のほうをさせていただきたいと思います。

令和５年度、こちらに出ています五つの重点項目について、活動のほうをさせていただきました。１から４番までは前回１回目のおたがいさま地域創生会議のほうでご説明させていただいた部分も多いかと思います。そのため、今回はまず３番、生活支援の担い手の養成と居場所づくりの支援。そして４番、生活支援コーディネーターに対する研修についてをフェイスブックの記事から抜粋して、報告のほうをさせていただきたいと思います。

スライドのほうには入れなかったんですけども、皆さんお手持ちの資料のほうに、資料５番というふうに書かれている第２層生活支援コーディネーター活動報告。令和５

年度②というものと、③というものがありますので、こちらの③のほうをご覧くださいければと思います。下の段になります、黄色の囲みのある男性の居場所編です。

こちら、令和4年度に報告された、長生きするなら北区が一番アンケートで、男性の社会的孤立の割合が57.5%と高く、男性へアプローチして地域へ出てきてもらうきっかけづくりをしようということで、令和4年度は生活支援コーディネーターへの研修、そして令和5年度は長寿支援課さんと共同で、男性対象への担い手づくり講演会、そして体験会などの開催をさせていただきました。

そして、こちらのほうは体験会の際の記事になります。体験会のほうは男性がどういふものであれば興味を持って出て来てくれるだろうというので、長野県で実際にやられているレコードをツールにした男性の集いというのを、開催させていただきました。男性の方々限定ということで、思い出とレコードを持ってお集まりくださいというようなチラシを作って募集のほうをさせていただいて、少なくともあったんですけども、70代前後の男性が8名ほど集まっていたいただきました。この世代の方々、ビートルズとかジャズとか、そういうのがやはりお好きな世代だったので、もうお話を始めたら止まらないという感じで、多かったのは青春時代の皆さん一瞬で戻られて、併せて初恋の思い出とか、女性に関する思い出がとてもたくさん出ていたなとか、あとはクラス会でこうだったんだよという話がたくさん出ていたのがとても印象的でした。

こちらのほう、イベント的に開催したので、取りあえず1回のイベントという形でその後の継続という形にはならなかったんですけども、このノウハウのほうを利用して、今後小地域でも行う企画のほうがもう既に進んでおります。参加者からは、男性ばかりだったのでやはり参加しやすかったということと、あとは興味のある内容がうまく合致したら、やはり地域にもっと出たいと思うというような感想をいただきました。

そして、ページをめくっていただいて、もう一つ、男性の居場所づくりというところで下の段、みずべの苑エリア編というので、防災力をつけてイケオジになろうという、なんとすてきなタイトルをつけたものもちよっと併せてご覧くださいければと思います。

こちらは、地域のほうに防災公園が今増えてきているかなというふうに思うんですけども、そのかまどベンチを利用して、たき火経験豊富な男性の皆さん方に力を借りて、男性同士の交流をしませんかという機会にされた、とても工夫された企画になっております。こちらのほう、かまどベンチ実際にパカッと開けてやっている写真が写っています。こちらのほう、かまどベンチ実際にパカッと開けてやっている写真が写っていますけれども、こちらを開けてみたら、いろんな地域でもあんまりかまどベンチを使って

いらっしゃらないところもあるのかなというふうに思っていてまして、ゴミとか落ち葉とかが大変たくさん詰まっていて、本当に災害時に急に使えと言われても、とても使えるような状態じゃなかったのを、お掃除されたというふうに言っていました。

男性の交流の場というところで、本当にいろんな企画が今進んでいて、今日いらっしゃる熊木委員のところ、豊島のほうでも、男性の主体の協議の場のほうが今進んでいますし、とても男性にアプローチをかけるには、とても魅力を感じていただけるような工夫と、あとは時間を掛けてのアプローチというのがすごく必要なんだなというのは本当に私たち身にしみて、今、感じているところです。今後ちょっと試行錯誤を繰り返しながら、こちらのほうの企画を進めていきたいと思います。

そして研修としては、ちょっとページを戻っていただきまして、令和5年度②の、めくっていただいて、緑色の認知症すごろくというものがありますので、ちょっとこちらのほうを紹介させていただいて。・・・さん、ありがとうございます。

認知症すごろくの広がりやを学ぼうという企画を、今回させていただいたんですけれども、水戸市のほうで、認知症すごろくのほうを地域の住民の方々と一緒に作られたということで、こちらの広がりについて学びをさせていただきました。生活支援コーディネーターは地域の方々に、地域で起こっている問題を共有したりとか、共にできることを一緒に考えていくというのが大きな仕事なんですけれども、例えば町会さんに突然こんな課題があつてというふうにご相談に行ったら、多分町会さんのほうもすごくびっくりされるのではなかろうかなというふうに思っていてまして。ちょっと本当に自然に、ライトな形で、こういうようなツールをきっかけに、自然と地域の方々と話し合えるという、きっかけづくりを水戸市のほうはされています。

こちら、実際にちょっと今日持ってきているんですけれども、例えば認知症のことを、まず主人公が、水戸認太郎さんというおじいちゃん、こちらのほうは少しずつ認知症が進んでいくというすごろくになっていて、ちょっと内容としては悲しいんですけれども、それが脳トレをやったりとか、介護予防体操をやったりして、少しずつ進行が遅くなっていくんですね。なので、すごろくというのは通常、早くゴールした人が勝ちなんですけど、これは遅くゴールした人が勝ちというとても工夫されていて、途中でスクワットを10回やりましょうとか、脳トレを10回やりましょうというのが入っていたりして、とても皆さん、楽しみながらやっていただくようなツールになっています。

こちら、楽しく学ぶというのはもちろんなんですけれども、認知症ネットワークの推進、

あとは介護予防の啓発を目的にしている、本当に皆さん方、地域の方々に生活支援コーディネーターを学んだ後、たくさんのサロンとか地域包括ケア連絡会でも今現在、既に利用されています。ですが、これが本当にただゲームをやって楽しいではなくて、水戸市のほうではこまの一つ一つの社会資源を深めていったりとか、あとは例えばこの中に、夏なのに冬服を着て歩いているおじいちゃんがいるよみたいな、こまがあるんですけれども、何でそういうことが起こるのかというのを、病院の先生から解説をしていただいたものを、認知症のサポーターのほうのステップアップ研修のほうに使われたり、とても病院のほうも地域の方々も一緒になって推進をしているというふうに聞いております。

今後北区も、楽しく学ぶのももちろんなんですけれども、これからもう一歩進んだことをちょっと考えていければなと思っております。

フェイスブックにはこれ以外にも、各あんしんセンターの生活支援コーディネーターが地域づくりに取り組んでいる様子を報告させていただいていますので、ぜひ後ほどゆっくりご覧いただければと思います。

それでは、資料のほうに戻らせていただいて、5番の多様な協議の場の立ち上げ・運営支援について、今回は重点的にご報告のほうさせていただきたいと思っています。

協議体・協議の場とはというふうに書かせていただいて、こちらは厚生労働省のほうで作っている書類のほうを持ってこさせていただきました。生活支援介護予防サービスの体制整備に向けて、多様なサービスの提供主体の参画が求められることから、市区町村が主体となって、定期的な情報の共有、連携強化の場として設置することにより、多様な主体間の情報共有および連携・協働による資源開発を推進する場が、協議体というふうに位置づけられています。1層の協議体は、こちらの今行っているおたがいさま地域創生会議で、2層のほうは各地域のほうで、いろんな方々に集まっていたきながら、その土地、その地域の課題に沿ったような形で、今少しずつ協議体のほうが広がっています。

北区のほうの令和5年度開催される協議体のほうを、ちょっとこちらのほうに上げさせていただきました。藤原先生のいらっしゃる健康長寿医療センターの研究所の方々が、今2層のほうの伴走支援を11か所ですかね、高齢者あんしんセンターさんのほうをされているので、居場所立ち上げ型の協議の場というのが、今、北区ではとても増えているかなというふうに思っております。

その中で今回は結構、平成29年、30年ぐらいから立ち上がりました、赤北さんさ

んミーティングのほうを事例として挙げさせていただきたいと思います。

赤北三丁目でやっている、本当に協議体になりますので、エリアとしては赤羽北高齢者あんしんセンター、あとは桐ヶ丘やまぶき荘の高齢者あんしんセンターがまたがる、本当に三丁目エリアになります。

人口割合としては5,500人で、高齢化率としては北区の高齢化率が23%ほどなので、それよりもちょっと高いエリアかなというふうに思っています。

ちょっと地図のほうが見にくくて申し訳ないですけども、環八沿いに北赤羽駅のほうがありまして、そこから北医療センターのほうに向かう道が、非常にすごい崖のような坂道になっていて、高齢者の方々が駅のほうに買い物に行くには下って、登らなければいけないという、帰り道に荷物を持って登っていかなければならないというようなエリアになっています。

そして、そちらのほうに、平成29年に特別養護老人ホームの赤羽北さくら荘のほうが新しくできたというのと、それに伴ってシルバーピア赤羽北のほうが出来上がったというところから、こちらのほうのミーティングのほうがスタートになりました。

赤羽北のさんさんミーティングなんですけれども、初めの成り立ちとしては、赤羽北さくら荘シルバーピアのほうができたときに、やはり買い物難民とか、移動難民の問題が出てくるんじゃないかというのを、スタッフさんがとても心配をされていたというのがもともとありました。そして、せっかく赤羽北さくら荘もできたので、地域の課題を共に一緒に考えましょうということで、赤北さんさんミーティングのほうで平成30年の10月から立ち上がりまして、そして、買い物の問題があるんだったら、私たちのほうで力になれないかという、障害者のB型の支援をしていられませんかの会さんのほうも、赤北マルシェの開催というところに関わっていただくようになりました。

そして、赤北さんさんミーティングのメンバーとしては、こちらの皆さん方になっています。特徴的なところは先ほど言ったように、二つの高齢者あんしんセンターがまたがっているエリアというのと、桐ヶ丘エリアには北社協のコミュニティソーシャルワーカーも関わっています。実は私も立ち上げのときは桐ヶ丘のコミュニティソーシャルワーカーだった関係もありまして、こちらのほうに立ち上げから関わらせていただきました。そして、赤北マルシェの発起人であるさざんかの会さんのほうも、コアメンバーとして活躍されていました。そして、地元の自治会さんとか、民生委員さんとかは、もうエリアにある町会さんには全てお手紙のほうを出させていただいて、立ち上げのと

きにぜひ参加してくださいというふうに呼びかけをさせていただきました。現在は、赤北マルシェのほうに販売を協力してくださる団体さんも、メンバーとして増えているという状況です。

ちょっと写真としてはこんな感じ。ちょっとスライドのほうが、そんなに大きくなかったんですよ。ごめんなさい。一番初めは赤北マルシェができたときは、さざんかの会さんだけポツンとお店のほうを出していて、あとは赤北さんさんミーティングもそれと並行してやっていたというところですよ。

協議体の変遷というところで、実は平成29年とか30年とかから始まって、実はなかなか、やっぱり協議体って話し合っていくというのは大変だなというのを、ちょっと変遷としてまとめてみました。

立ち上げ期が平成30年になるんですけれども、まずちょっとこの協議体が立ち上がったときというのは、まだ私たちも果たして協議体とはいかなるものを話し合ったらいいのかというのがまだちょっと明確にピンときていなかった時期でして、それこそ藤原先生のいる研究所の皆さん方に伴走もしていただきながら、立ち上がったというふうに聞いております。そして、一番初めはやっぱり支援者の方々に引っ張っていただいていたので、地域住民の方々も参加者として、私自身も参加者として、一体協議体って何を話し合うのかなとドキドキしながら、ちょっと・・・にいたなというのを記憶として覚えております。

そして、様々な地域課題があって、なかなか方向性が一番初めはちょっと絞り切れなかったなという時期もありました。やはり地域の方々とお話をする、やっぱりその時々、どういう地域課題があるかというのは本当にいろいろあるんですけれども、例えば防災というのは必ずどこの協議体でも話題として上がるかなと思いますし、あとはこちら赤北さくら荘がもともとできたところが、キタゾノクラブという、地域の生きがいづくりの拠点になっていた場がさくら荘に変わったというところもあったので、生きがいづくりをこの協議体の中でも取り組んでいきたいという意見もあったりですとか、あとは見守りとか、あとは地域の民生委員さんとかも大変ご苦労されているかなと思うんですけど誘っても、なかなか出てこない地域の方々をどうしたらいいだろうとか、そういうような地域課題がたくさん出されて、ちょっと何から手をつけたらいいのかというところで、非常にやっぱり立ち上げのときは悩んでいたかなというふうに思います。

そしてミーティングと合わせて、シルバーピア前の駐車場のスペースがあったんです

けれども、そこでシルバーピア方々、あと地域の方々が気軽に買物に来られるようにということで、不定期にマルシェのほうを開催させていただいていたので、ちょっとそちらと両輪になっていて、だんだんちょっとその負担感も、メンバーの負担感も出てきたかなというところで、特に忙しい自治会の社協さんとかは、ちょっとこのタイミングで少し抜けられたりというのもあったなというふうに思い出しました。

そして、令和2年なんですけれども、新型コロナウイルスのほうがまん延したというところで、1回ここでちょっと、地域活動が本当に休止になってしまいました。

そして復活期というのが令和3年度からなんですけれども、令和3年度12月に復活したなと。令和3年度と言ったら、一番最後の緊急事態宣言が7月から10月まで出ていたというふうに載っていたので、本当にその後、直後だったんだなというふうに私もこれをつくりながら思い出したんですけれども、まだなかなか地域活動は復活できない時期で、北区では、前回も報告させていただきましたが、コロナ禍に青空体操、公園体操、短時間に公園とかで集まって、10分、15分体操して皆さん開催する、解散するというような地域の方が、コロナ禍で非常にたくさん多くできていましたので、こちらのエリアでも青空体操のほうを開催しようということで、早速毎週木曜日できました。そして、その体操と連動するような形で、イベントのほうが取りあえず1回やってみようということで復活して、そのときに本当に久しぶりの方々と集まって、やっぱりこういう地域活動って必要だよなというのを、メンバーも、あとはお客さんで来てくれた方々もみんなで共有できたところです。

ただ、ちょうどそんなやれやれ復活できそうかという時期、悩み期に今度入っていくんですけれども、ちょっと職員のやはり交代等もありまして、やはりどちらの高齢者あんしんセンターさんでも、私たち社協もそうなんですけれども、職員の交代などが必ずやはりどこかではありますので、やはりそのときに以前の活動と、これからどうしていこうというのがちょっと見えなくなって、ちょっとみんなで一度方向性の整理をするという時期が1年間ぐらいありました。そして当時、職員が入れ替わったということもあって、かなり生活支援コーディネーターのほうで、かなり地域活動を私が頑張ってやらなきゃというのを負担を感じるぐらいになってしまっていたんですね。

例えば、赤北マルシェというイベントをやりますということになったら、チラシを、その生活支援コーディネーターの方が何百枚も地域に、自分で配りに行ったりですとか、あとは何かもう連絡調整とかお膳立ても全部あんしんセンターの方がやるとか、ちょっ

とそういうところでだんだんちょっと負担感を増してきて、いやいやそもそも何で私たちこの協議体にやっているんだというようなところをちょっと振り返る機会になったかなというふうに思っています。

そんなときに、この赤北さんさんミーティングというのは、地元と、あとは出張を組み合わせながら、地域を元気にする活動、初めは買い物支援という話もありましたけれども、買い物支援と言えるほど、やっぱり頻度高くはイベントはできないし、そうではなくて、単発でやりながらも、地域を元気にする活動として位置づけていったらいいんじゃないかというところで、少しずつみんなが同じ方向を向けたかなというふうに思っています。

そして、そんなタイミングでだったんですけれども、委員も、実は赤北さんさんミーティングのメンバーに入っているんですが、赤北さんさんのこのマルシェってすごくいいから、病院のイベントのときに出張してくれないかというふうにお話をいただいて、皆さんさらにちょっと役割を、新たにまちを活気づける私たちは役割なんだというようなことで、担い手としてのお誘いを受けて、協議体としてもまとまっていたかなというふうに感じています。

現在は、まだ試行錯誤しながら、みんなで考える期というところで、例えば、以前は生活支援コーディネーターが一手に担っていた情報の、会議をやりますという連絡調整とか、そういうものもLINEを活用して、みんなでLINEで日程調整ができるようになったりですとか、あとは広報の協力。参加団体さんにも協力してもらって、赤北マルシェにたくさん来ていただけるように、もう地域の方々が広報して、まさに呼んでくれるという場になっていたりですとか、あとは地元の人にもっとたくさん楽しんでもらうように、メンバー以外の社会資源をもっと働きかけたいというふうな声が上がって、今いろんなところに一緒に仲間に入ってもらえませんかというお声がけをさせていただいています。

実はつい先日も、住宅課さんのほうにお邪魔をさせていただいて、なかなか参加団体さんが増えてきたので、場所も手狭になったというところとか、あとはこのすてきな活動自体もちょっと住宅課の方にも知っていただきながら、シルバーピアの談話室、そちらのほうも必要時にはちょっと使わせていただけないかというようなご相談もさせていただいているところです。

そして、若い世代への協力依頼というところで、今、東洋大学さんのほうにも依頼を

して、ボランティア活動の募集もさせていただいています。

赤北さんさんミーティングが一番初めは、赤北マルシェを作っていくというような目的から始まったんですけれども、今はつくっていく過程の中で自分たちもできること、やりたいこと、困っていることを自然と話し合える関係性にもなってきていますし、あとはお互いに新たな仲間を巻き込もうという動きも出てきていますし、あとは住民ならではの地域課題、例えば赤北マルシェの中で出てきているのは、高齢者のスマホ問題、なかなかやはり、これは聞きたいときにそばに聞ける人がいないという問題ですね。あとは、シルバーピアと地域住民がもっとつながれないか、どうしてもシルバーピアはシルバーピアだけで・・・してきて孤立してしまうので、そうではなくて地域の人たちがもうちょっとつながれないかというような地域活動へ、地域課題へのアプローチにも、少しずつ少しずつですが、ちょっとつながってきているかと思います。

協議体ちょっと今このような場で、赤北マルシェのほう、赤北さんさんミーティングのほうは進んでいます、そのほかにも地域包括ケア連絡会、これから王子エリア、赤羽エリア、滝野川エリアでやっている地域包括ケア連絡会のほうも、北区の中では協議体として情報交換の場、働きかけの場というような機能のほうを持っています。今回は、こちらのほうも、皆さん目的を持って活動されています。例えば、赤羽は地域で活動されている団体と、大学生さんがつながる場。滝野川はフォーマルや社会資源と、インフォーマルな社会資源がつながる場。王子は高齢者あんしんセンターと、なかなか接点を持ってない地域のミドル世代へ働きかける場というように、それぞれ目的を持って働きかけのほうを行いました。

それでは、ちょっと私のほうの報告はこれで一旦終了させていただいて、ここからは各圏域の生活支援コーディネーターのほうから、地域包括ケア連絡会のほうの報告のほうをさせていただきたいと思います。

【委員】

浮間高齢者あんしんセンターです。

令和5年度は赤羽圏域地域包括ケア連絡会についてのご報告をさせていただきます。
着座にて失礼いたします。

令和5年度赤羽圏域地域包括ケア連絡会では、「地域のつながりを広げよう」をメインテーマとして、東洋大学の学生と地域の団体とをつなぐために活動してきた3年間を振り返り、今後について学生と地域の人が一緒に考える会として、「出会い、つながり、

そして一緒に」というサブテーマを持って開催いたしました。

令和3年度出会いとしまして、お見合い大作戦。1年目の令和3年度の連絡会では、東洋大学の先生方のご協力をいただき、学生と地域の方の出会いの場として、お見合い大作戦を企画しました。地域の団体が、活動内容を説明し、学生が質問していくという形式でのお見合いをしました。参加した学生からも、地域の方からも、おおむね好評を得て、一緒にサロンを立ち上げるといった話もありましたが、継続的なつながりとはなりませんでした。

2年目です。2年目の令和4年度は「知ることから始まる縁」というサブテーマとして、昨年度の連絡会での気づきを生かし、学生と地域の方がつながるためには、お互いのことをもっと知る必要があると考え、お互いの思いや考えを話し合う場を設けました。地域の方から学生の参加を希望する声が多く聞かれ、学生からは活動している団体に入っていくことへの不安を感じているということが分かりました。まずは一緒に活動することが、お互いを知るきっかけになるのではなかという意見が出ました。

そこで令和5年1月には、まず赤羽圏域の生活支援コーディネーターが、東洋大学国際交流宿舎のほうを訪問しております。

令和5年7月には、東洋大学ボランティア支援室で、学生と地域の活動団体が一緒にイベントを行う交流会を開催したことは、前回創生会議でもご報告させていただいております。

3年目の節目となる令和5年度の連絡会は、これまでの歩みと、この先を見据え、「出会いつながり、そして一緒に」をサブテーマとしました。令和5年度連絡会にしましては12月23日土曜日10時から11時半、赤羽会館大ホール、地域の団体19名、学生8名、大学の先生2名に参加いただき開催いたしました。連絡会の内容としましてグループワークでは、地域の人と学生が6グループに分かれて、一緒に活動するための企画書作りをしました。出来上がった各グループの企画書を提示し、参加者の皆さんに見てもらい、学生、団体の皆さん、東洋大学の先生に気に入った企画に投票をしていただきました。企画書の内容としましては、イベント名、具体的な内容、開催時期、場所、周知方法などを記載してもらいました。投票タイムとしまして、投票については、グループワークに参加した学生、地域の方には自分のグループ以外に投票するようお願いしました。お二人の先生にも投票していただきました。

こちらが、各グループから出た企画書になります。日本の四季を意識したイベントや、

オンラインを活用したイベント。東洋大学を会場としたイベントや、皆さんで参加する運動会という企画。盛りだくさんのお祭りや、学生と地域の方が一緒に回るスタンプラリーなど、多くのアイデアが出ました。ちなみに今回の企画書では、Aグループ四季の集いが7票を獲得して最多となっております。

先生からのお言葉です。先生からは、季節を感じられるイベントは誰もが参加しやすい。忙しい学生には、会場を大学にするなどの考えは有効的であるといったお言葉をいただきました。

地域の人からの感想です。地域の方からは楽しかった、有意義だったとの感想のほか、自分なら何ができる。赤羽に大学が来てくれたことで地域が活性化するのではと期待の声も聞かれました。

学生からの感想です。学生からは、所属するサークルとして参加できる。SNSで周知活動ができるといった、学生ならではの意見感想がありました。具体的には分かりませんが、地域活動に参加することを地域の方と約束した学生もいたような様子です。

今後の展開です。今後赤羽圏域では、地域の団体と学生の交流イベントを実現するために、まずは学生と地域の人が定期的に集まる機会を設け、一緒に行うイベントの開催に向けた話合いをしていくことを考えています。そのために、東洋大学ボランティア支援室を訪問して、ボランティアコーディネーターの方から意見等を伺っております。

赤羽圏域の報告は以上となります。ありがとうございました。

【委員】

赤羽エリアのほうは、もう3か年計画ということにさせていただいているので、先生方にもたくさん見て、聞いていただいているかなというふうに思います。やはりちょっとどうしても、学生さんもとてもし忙しいので、単発のイベントにどうしても私たち企画してしまうとなってしまうんですけれども、点であっても継続することによって線になるよ。それが根づくということなんだよというふうに東洋大学の先生方からも励ましをいただきまして、ちょっと根づくことを今後のチャレンジとして、今向かっているところになります。

それでは次は、滝野川圏域のほうで報告させていただきます。

【委員】

滝野川はくちょう高齢者あんしんセンターです。

滝野川圏域の地域包括ケア連絡会は、昨年の11月15日に北とぴあで行いました。

令和5年度のテーマは、「その人らしい地域とのつながりを見つけよう、パート2。ちょっとした出会いから生まれるつながり」です。

このテーマには、地域の多様な立場の方々が我が事として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて、丸ごとつながることという、地域共生社会を実現していきたいねという思いが込められています。

パート1の4年度については、地域ならではのつながりの重要性に焦点を当てて、高齢者に関わる団体はもちろんですが、障害、児童、企業、商店など、多様な、いろいろな分野の団体の方に、参加をしていただきました。

例えば、シニアクラブ、町会・自治会の方々、民生委員の方々、自主グループ、それから障害センター、障害者の作業所、児童館、それから介護保険のケアマネジャーさん、デイサービスの職員さん、訪問看護ステーションさん、警察署の方、金融機関の信用金庫さん、それから銭湯の方々、そういった分野、いろいろな分野の方に参加していただいています。そしてフォーマルな団体、インフォーマルな団体という垣根を越えての意見交換を行いました。パート2の今年度は、その意見交換の結果、二つの事例が生まれてきているんですが、その二つの事例を地域の方々からご紹介いただいて、それらの事例をきっかけに、グループワークを行うということで、さらに多様なつながりについて推進していければということで考えて行っております。

最初の事例は、東京ふれあい生協さんが出していただいた、ご紹介いただいた地域で共同して行ったマルシェの開催についてです。北区内の尾久駅と、上中里駅の間の買い物が不便なエリアについて、そこはコンビニが1店舗あるんですが、近くにスーパーがありません。ちょうどJRの線路に挟まれていて、大きな地下道を渡らないと買い物ができない。また踏切に歩行者用のエレベーターもあるのですが、スーパーは上中里駅前の高台にあるので、坂を上らなければ買い物ができないといったエリアです。

尾久駅の周辺エリアの梶原銀座商店会さんは、昔ながらのお店が少しずつ減ってきているという状況がありました。この買い物不便エリアの様子を受けて、東京ふれあい生協さんや、地域の方々がどういうふうにしていけばいいだろうというアプローチの方法を模索してきました。何が地域に必要なかというアンケート調査も行った。そうすると、八百屋やパン屋さんが欲しいねという声が多かったそうです。その声に応えて、商店街で知り合いの八百屋さんに移動販売で来てもらったりとか、あとイベントのできる場所を探している企業さんに、不定期ですが来てもらったりとか、いろいろな試みをしたそ

うです。

そんな困難の中で昭和町・堀船高齢者あんしんセンターの生活支援コーディネーターさんと、東京ふれあい生協さんと合同で、上中里貝塚地域でマルシェを開催する話を進めることになりました。もちろん、マルシェ開催のイベントということでは、買物の困難対策にはならないのですが、これをきっかけにして、地域全体で問題を共有する初めの一步になればということで考えて、実施していきましましたということです。参加をした団体は、町会自治会さん、花屋さん、八百屋さん、お菓子屋さん、お弁当屋さん、それから障害者施設の団体の方々、社会福祉協議会さん、そして高齢者あんしんセンターです。この貝塚マルシェに参加した団体の一つであるドリームヴィイさんという社会福祉法人さんが運営しているスワンベーカーリーというところの協力で、この貝塚マルシェの後も、商店会内でパンの移動販売も月に2回開始することになったそうです。パン屋さんがちょっとない、この地域の方に大変喜んでいただいているそうです。

二つ目の事例に移ります。こちらはベンチプロジェクトです。

4年度に行われたパート1の連絡会での意見交換で、高齢者の方が休むベンチが街にないよねという話が出ました。腰を掛けるところがないから、外出をちゅうちょしてしまいう高齢者の方も、ベンチがあれば買い物に出かけるきっかけになるし、高齢者だけでなく、みんなが一休みできるんじゃないかと。街にベンチを置くことで、小さなコミュニティがそこに生まれるということを期待できそうだというような意見が出ました。

この話に入っていた訪問看護ステーションさんが賛同してくださって、地域にベンチの置き場所があれば用意しますよというふうに言うてくださいました。そこで、地域のどこに設置するといいだろうと、飛鳥晴山苑高齢者あんしんセンターの生活支援コーディネーターさんと、訪問看護ステーションさんで相談をしまして、その辺にベンチがあるといいなという場所を定めた上で、チラシを作って声がけをしてみました。

その結果、地域の郵便局さんや新聞販売店さんがベンチを置いてくれることになりました。

この二つの事例を基に、5年度の連絡会ではグループワークを行っています。具体的な感想や意見としては、昨年度のパート1と同様、様々な立場の人と交流ができてよかった。ふだん関わりの少ない職種や地域の方の具体的な話が聞けて、とても参考になったなど、いろいろな分野の方が集まって意見交換をするという機会の大切さを実感する声が多く聞かれました。そして、今後の活動でやってみたいこと、地域力を高めるため

に必要なこととしての意見としては、気軽に集まれる場所、街のあちこちにベンチのような休憩場所が必要ではないかというような感想や、今日のようなグループで地域づくりができるといい、いろいろな立場の人が集まって、様々なプログラムやイベントを地域で行いたいというような意見、また児童、高齢、障害の垣根を越えた交流と、人を思いやる、やさしい地域の必要を感じましたというような意見をいただいています。

連絡会で出た今後取り上げてほしいテーマとしては、障害を持った方との関わりについてもっと深めたいということや、地域の居場所づくりについてということ、それから、災害時にも協力できる地域づくりについて、そして他分野が、いろいろな分野の方が共同して、具体的なイベントの立ち上げができるといいというような意見をいただいています。

今回、事例に触発されて、地域のベンチ、あるいは地域で共同して行うイベント、マルシェなどへの関心が生まれています。連絡会でこんな活動ができるかもという意見交換がなされたことを受けて、滝野川圏域の生活支援コーディネーターの集まりでは、今後につなげることができないか、その方向を今模索しているところです。まず、ほかの区で先行事例として行われている電子プロジェクトの勉強会を1月に行っていますが、それなどを基にしながら、今後につなげることができないかを今検討しているところです。

滝野川圏域の報告は以上になります。ありがとうございました。

【委員】

続きまして、豊島高齢者あんしんセンターです。

これまでの王子圏域地域包括ケア連絡会のテーマについてですけど、まずちょうどコロナの影響で集まることが難しくなった令和2年、このとき本当に小規模で開催をさせていただきましたが、地域のつながりの大切さというのを、生活支援コーディネーターも本当にコロナでいろいろなことが起こっている中感じる時でした。ですので、コロナに負けない地域づくりという副題で、地域力の強化の必要性を地域の方に集まっていたいて認識していただいたのと、あとコミュニティドクターという方に参加していただいて、そこから地域の方々へとコロナに気をつけながらの集まり方みたいなつながりが生まれたことがありました。

続いて令和3年、同じようにパート2として、小さな活動から元気をということで長引くコロナの影響を受けながらも活動を続けられている団体さんに集まっていたいて、

大切なことということで、団体としてコロナで続けて共通点とかコツというのを確認させていただきました。

令和4年、引き続きその中でも、さらに孤立という問題も先ほど地域ケア個別会議で上がっていたように、孤立という課題がずっとありましたので、そういった孤立をちょっとテーマにということでそれを支えるコツということで行いました。このとき、孤立事例とか実際に孤立防止のためにできることということで、町会さんたちや、民生委員さん、いろんな団体さんに集まっていただいて、グループワークをしていただいたときに、やはり日頃のつながりの大切さということ、改めて皆さん確認し合っていたこととか、あとは情報交換することで、すごくとても参考になったというところで、令和4年のこの開催に、非常にこのテーマについてもっと事例とか対処方法のヒントなど、ぜひもっと深めてほしいというご意見もありましたので、ちょっとそれを今回令和5年度に関しては、令和4年の孤立というテーマと、あとは諦めない多世代といったキーワードから、ちょっとテーマを選定をさせていただいております。

その孤立のいろいろ深めていくのもとても難しいなと思いながら、いろいろな出場で参加者の世代を、今回ちょっと絞ってみてはどうかということになりました。いつも、いろいろな関係者、各団体に声がけさせていただくのですが、比較的50代とか、なかなか若い世代の方に私たちもつながっている機会が少ないです。こういった次の担い手となるミドル世代、いわゆる50代から前期高齢者ぐらいの世代の方にちょっと、今回はお声がけさせていただこうということで、その方たちにとっても自分事として考えるきっかけにならないかなというところで、今回はテーマを「地域のつながりの大切さパート4、孤立せずに暮らすには」ということで開催いたしました。23名のご参加いただいています。所属団体は自治会さん、町会さん、民生委員さん、自主グループさんというところではありまして、私たちあんしんセンターのコーディネーターが関わりのある比較的若い世代、ミドル世代から前期高齢者の方たちにご参加いただいています。

内容としましては、まず最初にアイスブレイクというか、グループワークとして和んでいただくために、先ほど菅野さんからお話がありましたように、すごろく、水戸市が作成したすごろくをちょっと活用させていただきました。内容については先ほどご紹介いただいたとおりなんです。やはりまずこれとかいろいろなことを我が事、自分事として捉えていただくというツールとしては、このすごろくが非常に自分が認知症進行していた場合という仮定でお話を進めていく感じですので、非常にそういう意味では反応

もよくて、盛り上がって、話も、グループワークも、ベースとして温かいグループが出来上がってスタートできたというところです。

続きまして、あんしんセンターから今度は社会資源等々の案内について、お話をさせていただきました。私たち、これは今回社会資源の案内①②がありますが、生活支援コーディネーターの話し合いの中でちょっと作成をいたしました。あんしんセンター、いろいろな一般相談、総合相談とかいろいろな相談を地域の方から受けますが、ご案内、つなぐ先、いろいろな社会資源等々、いろんなジャンルに分かれています。区のほうもいろいろなガイドブックとかツールがあると思うんですが、そこを横断的に少し見せられたらなというところで、相談内容のほう、項目ごとで、生きがい活動、集いの場というところで4項目に分けて、その間に入るところとか・・・で作らせていただいています。

続いて、②のほうは同じように、北区の見守り支え合いのジャンルで分けて見ております。

こういったものを私たち日々活用しながら、相談に応じていますので、この辺りをちょっとまとめたものを使って、ご参加者の方、今回あんしんセンターのことをあまり知らない参加者の方もいらっしゃるので、まずはこういった説明をさせていただきました。

続きまして事例紹介、ちょっと今回は事例を幾つか発表した後に、グループワークをしていただいております。

一つ目の事例ということで、もう少し前に関わることができたらなと私たちが感じているような事例でした。90歳代女性が一人暮らしで、糖尿病があってかかりつけ医にはかかっていたけれど、しばらく来なくなると医療機関より連絡が入りました、あんしんセンターに。訪問をすると自宅は物が散乱していて、すぐに支援が必要な状態と確認をして、介護保険の申請を提案しましたが、本人がまず拒否をされるというか、親族へ連絡をしてみました但し関係性がよくないことが分かって、家族、つながっている家族がいない、近隣ともどなたとも付き合っていないといった事例で、ちょっと重たい事例と。

もう一つはこんな相談もあるというところで、よくある、今すぐに何かお手伝いしないといけないわけではないんですが、なかなかいろいろ課題が多いかなと思われるような事例を三つ挙げさせていただきました。

70歳女性、一人暮らし、先行きが心細い、人との交流が苦手、この先どうしようと

ということですね。

あとは60歳女性、同じように一人暮らし、未婚、定年を迎え親族との付き合いはなし。入院時の保証人がいない。自分が、それこそ整形外科の手術をしたときにどうしたらいいか。

70歳男性、一人暮らし、子どもなし、妻が施設入所されたので、週に1回面会に行く以外買物に行く程度、誰とも会話をしない毎日、ということでちょっとした関係性からあんしんセンターとのつながりがあったのでそんな話を、あんしんセンターの職員にはして下さるといった事例を活用しながら、続いてグループワークをしていただきました。

グループワークのテーマとしては今のような、あったような事例を聞いたことがあるか、または手助けが必要となる前に、ご自分だったらどうしますかといった内容のグループワークをしていただきました。ちょっと吹き出しに書いてあるようなお話、長期的な視点を持つとか、定期的な話すところができるとか、なかなかあんしんセンターまでちょっと行く前に、それこそ身近なお店とかコンビニとかそういうところのほうが、認知症カフェというよりつながりやすいんじゃないか。あとは助けてという力が必要だとか、LINEを使っての見守りをしてはどうかとか、日頃のつながりとか「助けて」と言えるようになることが大切といったお話で。中には地域活動を探している方が、たまたま子ども食堂に見学に行った際に、この人とつながりたいという気持ちになったというようなお話や、介護や定年を迎えて、子どもは遠いし、自分はちょっと寂しい感じがあって、あんしんセンターへ相談を何度か重ねていたところ、こちらは子ども食堂でお誘いがあって参加して、そこで子どもとの関わりや、高齢やシニアの世代の方たちとつながりを持てて気持ちが軽くなったとかといったような、いろんな具体的な前向きなお話が非常にたくさん出て、とても有意義な会になったかと思います。

参加者からのアンケート結果からも、すごろくで和み、勉強になったとか、グループワークの話が参考になったと、いろいろなあんしんセンターとか民生委員さん、北区の社会ソースについて知ることができてよかった。若い人が年寄りを支えると重いので、自然な成り行きに持っていけばいいかの教育が必要かもしれないといったご意見や・・・意見交換の場を持ったほうがいい。

あと改善点としては、困った事例も必要だけれど、こんなふうに助けた事例があったなど、プラスの事例集も身の回りに参考になるのではないかな。仕組みがよく理解できな

いので、そこから教えてほしい。地域包括ケア連絡会という仕組みのことだと思うんですけど、そういったご意見を相談して、まとめとして私たち生活支援コーディネーターとしましては、様々な働きかけの必要性について、いつもとは違う世代の方々に理解いただけた。今のうちから知り合いになっておくといったご意見からも、地域の皆さんと共に考える場、話合いの場が必要であるということ。個人情報保護は大切ですが、厳密にしていくと、地域共生社会の実現に相反しかねない、個人情報には触れずに地域と関わり続けて、その結果住民の利益となれば地域とのつながりのよさが浮き彫りになっていく。ですので、コーディネーターとしては個人情報保護の大切さを理解した上で、ネットワークをうまく作っていくという役割があるなということを改めて感じさせていただきました。

ということで、個別ケア会議でも本当に孤立とか担い手不足という問題が上がってきて、今回の連絡会にもつながっております。なので、そういったいろいろな世代に、これからこの孤立の問題とかを我が事として考えていただいて、担い手をさらに広げていくためにはどうしたらいいかなと思いながら終えていますので、ちょっとご意見等も今日いただければありがたいなと思います。

以上になります。

【委員】

一番最後にいただいたミドル世代へのアプローチというのは、実は私も一緒に入っていたんですが、率直に本当に難しいなというふうに感じました。現役世代の方々もとても多いし、忙しい中で、何をポイントにどう働きかけをすると、もっと広いミドル世代の方々にも、高齢者の問題であったり、高齢者がこんなに活躍をしていることであったり、興味を持ってもらえるのかなということを、私自身も非常に悩んだところです。ちょっと今日たまたま、たまたまではない、平井委員とかまさに世代の方がいらっしゃるので、何か本当に私たちも悩みながら、試行錯誤しながら、地域のネットワークを広げる活動をしているんですけども、ぜひそういうところも、もっとこういうような働きかけがいいんじゃないかなど、アドバイスをいただければと思っています。

報告は以上になります。

【会長】

ありがとうございます。非常に1年間通しまして、大きな活動をやっていただいたことがよく分かるかと思いますが、委員の皆様から感想でも、ご意見でも、アドバイスで

もあればと思います。

【委員】

先ほど滝野川地域でご報告があった、貝塚マルシェ。とても活気が、とても広い草っ原に確かっていたと思うんですが、とても写真の中からの活気があるような様子を伺いました。

高齢者と児童と障害者がもうちょっとつながれたらなんていうことも書いてあったんですが、そういうところも、何ていうんですかね、子ども向けのイベント、確か昭和町とかって結構自治会さんが強くて、結構頑張って活動されていらっしゃる印象があるので、赤羽まで聞き及んでくるぐらい、すごく活動されているところなので。これ以上、何をするというぐらいやっぺらっぺらに感じられるんですが、僕たちのベーゴマなんかも一緒になってやって、その高齢者と子どもを一番多分つなげやすいツールではあるので、そんなことも混ぜ込んでいただきながら、一緒にできたらいいななんていうこともちょっと感じながら見させていただきました。ただ、ベーゴマって寒い時期に割とやる遊びなんですけど、初心者の子どもが寒い時期にやると手がかじかんでとてもじゃないけど回せる状態にないとかというのがあるので、ちょっと季節感を選ぶ遊びでもあるので、その辺なんか加味しながら、何か一緒にできたらいいななんていうふうに思っていました。

以上です。

【会長】

どうでしょうか、今のアドバイス何か、ちょっとお役に立ちそうでしょうか。

【委員】

委員は、実はこの支え合い団体なので非常にいつもお世話になっています。本当にそういうふうに、実はそのミドル世代のほうでご活躍いただいている方々が、地域でもすごくたくさんいらっしゃるのに、そことちょっと高齢者も、あんしんセンターさんの活動と、今まだなかなかちょっとマッチングできてないなというところも、私たちの中でもちょっと悩みで。本当に平井委員のおっしゃるとおり、そういうような自然なイベントの中から、本当にやれ私たちのことを知ってほしいというよりも、やはり自然なイベントの中で、本当に心を通わせていくというのが本当にベースなので、草の根の活動が本当にいかに大切かなというふうに思っています。

今後もうちょっと、先ほどの活動のマッチングの話も私たちのほうで大事に課題として

持って、また地域包括ケア連絡会や協議会で考えていきたいと思っていますので、ぜひ委員の皆さん方もご参加いただけたらうれしいと思います。

ありがとうございました。

【会長】

本当に今、おっしゃったように、この中年世代、ミドル世代ですよ。正面切っていてもみんな接点もないですし、忙しいで終わってしまうと思うんですけども、でも一方では委員のように、その世代でもうちょっとアンテナの葉っぱというか、感度の高い方っていっぱい地域にいらっしゃると思うんですけども、その方々がいきなり初めから高齢者支援とか、高齢福祉に関心あるかという、そうではない場合が多いと思うんですよ。やっぱりそれが、その方によってはやっぱり街づくりとかに関心がある方もおられれば、子どものサポートに関心がある方もいると。ですので、入り口は様々ですけども、やっぱりそういった方々と知り合う機会をつくって、だんだんネットワークを深めていって、最終的には高齢のほうもサポートしてもらったり、逆に高齢のほうの子育てのほうをサポートしていったり、多分センスのいい人というか、感度のいい人が地域に埋もれているのを発見してつながっていくというのがやっぱり一番大事かなと思うんですね。そのために、やっぱり場自体も共生型というか、高齢者限定とか子育て限定じゃなくて、もう何でもありの地域共生型の、もう外国人もありも、やっぱりそういう幅広い活動している人のほうが結構応用力もあったり、センスもいいこともありますので、そういった方とつながれる場をどんどんつくっていくという意味で非常に重要なご意見かなと思いました。ありがとうございました。

【委員】

そこで、私PTA会長もさせていただいていた経験があって、今のスクールコーディネーターのほうもさせていただいているんですけども、やっぱりスクールコーディネーターされている方、ほとんどPTA会長を・・・やっていらっしゃるので、子どもたちに対しての地域の活動というものに対して、すごく興味関心がある方が多いと思うんです。役所でそこがつけられるのか、ちょっと分からないんですが、結構自治会さんとの密接な関係とかもつくられているところは結構多いとは思っていますので、そういう方々を引っ張ってきて、子ども向けのイベントとか、何かイベントをやるときに子ども向けのものをやりたいんだけど、一緒に協力してくれないかって、こっち側もできる限りのことをやるからという感じで、高齢者と子どもをつなぐ役割の方をうまく、多分その辺

がミドル世代がマッチングしやすいかなとは思っているので、そういうところを何かうまく活用していただけると、自治会さん等も入っていきやすいし。高齢者あんしんセンターにミドル世代が足を踏み入れるということが、大体そもそもないので、なので、そういうところでやっぱり自治会さんのその役割というのがすごく大きくて、地域に根ざした活動というところで、両方が足を踏み入れやすいところでやれるといいのかなとは感じました。

【委員】

民生委員も参加してということで、町会のイベントというか、町会のものだったんですけれども、避難所開設の訓練をしました。そのときに、各町会からもちろん民生委員とかいろんな人が出たんですけれども、おっしゃるとおり、ほとんどの方が60代、70代で、もっと高い80代の方もいました。80人ぐらい参加してくれたんですけれども。それで、これをやろう、あれをやろう、いろんなことがあったんですけれども、そうしましたらば、最終的に親父の会という元PTAの会長さんたちがやっている、それこそ50代の方たちなんですけど、小学校の夏休みに、泊まりの夏祭りのようなあれをやりたいと。そのときに避難所の訓練のその続きみたいなことをやらせていただいたらいいかなというような話が出ました。

それでどういうことをやってくれますかって聞いたら、例えば段ボールベッドを組み立てる。子どもとお父さんで、3人とか5人で1組になって、何かを工作を作るような感覚で、そうしたらば、そのお父さんと子どもたちが仮に避難してきたときには、私たち作ったことがあると。あれなら僕たちできるという子どもも参加して、できるんじゃないかと、そういう話が出ました。ですから、確かにあんしんセンター、何々って言ってもなかなかハードルの高いよりも、もう本当に小さいところから、地域で集めるんじゃないくて、そういう発想が出てきて、うちの堀船地区なんですけど、連合町会でこの前やりましたが、とてもなんかよかった感じがしました。ありがとうございます。

【会長】

ありがとうございます。今、非常にいいアイデアをいただいたかと思います。

先ほどベンチを、スイッチするプロジェクトというのを伺いしまして、あれはやっぱり同じように男性の社会参加の場として、オーストラリアとかちょっと海外のほうでメンズ・シェットプロジェクトといいまして、いわゆる日曜大工ですね。それを一つテーマで集まって、トンカチトンカチでやるというようなムーブメントがあるんですね。

ぼちぼち、日本にも入ってきているんですけども、例えば次の一手としたら、そのベンチを作ろうというような形で、それなら例えば、昔ちょっとDIY、日曜大工やったような高齢者の方も、現役の世代の方も、子どもたちも、3世代で楽しめたりと。それで、それぞれオリジナリティのあるものを作って、地域に寄贈してやると、やっぱり自分の作った椅子ということでさらに愛着も湧くというようなことを言われています。ですので、やっぱり今おっしゃったような、何かきっかけさえつくれば、3世代で、特に男性に刺さるようなものなんかもあるんじゃないかなと思いましたので、本当にアイデアを情報網かなと思いました。ありがとうございます。

例えば、あれですかね。これは委員にお伺いしたいんですけども、先ほどからマルシェを立ち上げるというようなことが非常に効果的だと。もちろん空き地とかそういったところで、ゼロからいわゆる素人さんが全部お店をセッティングするというのもあると思うんですけども、やっぱり商店街とかでよくお祭りの、マーケットみたいなことをなさっているところもあるかと思うんですね。そういうのとのコラボとかやるとまた、定期的な開催につながったりとか、ちょっと質のいい、やっぱりプロの商店街の方が入ってくると少し締まる部分もあるかなと思うんですけど、何かそういった示唆というか、今後使えそうな、コラボできそうな可能性というのはないでしょうか。

【委員】

私は商店街連合の立場から、商店街としては、十条商店街に所属しているものなんです。ただ十条商店街って、本当に大きな商店街なんですけど、お休みどころというのがございまして、そこで皆さんいろいろお休みされながら、交流を持たれている場所が商店街にあるもんですから、そこで何かできることがあったらいいのかなって、先ほどいろいろお話を伺いながらそんなことを、じゃあ私に何ができるんだろうかって思ったときに、私はこの絵手紙の公認講師なので、そういった方に少し教えてあげることもできるのかなって、そんなふうに思いました。

【会長】

ありがとうございます。これも多分、いろんなほかの地域なんかで、商店街と連携してやっているような事例もいっぱいあるかと思うんですね。その辺もまた情報収集していただいて、なんかとも相談していただいて、何かやっているのも。やっぱり、せっかくこれだけ区内に商店街とか、商工会さんのお店があるわけですので、そういったところとの連携というのも大事かなと思いますので、よろしくお願いいたします。

【委員】

今日改めて、この3圏域での地域ケアのお話をされているのはとてもすばらしいなと思いました。その中で、本当今日コーディネーターさんの方が僕の前にずらっと並ばれているのが何かこうあるんですけど、各生活支援コーディネーターさんの方々、それぞれの地域包括でいろんな活動をされているんだろうなと思うので、今日は圏域ごとの発表があったんですけども、各包括ごとでの、またすばらしい好事例を共有することで、多分コーディネーターさんは知っているかと思うんですけども、そちらの包括ではこういうことも始めたんだとか、同じような似ているエリアだと、うちでもこういうことができるかもしれないねみたいな、やはり圏域ごとの発表になるとやっぱりちょっと規模が大きいのかなって聞いていて思ったのは僕かもしれないんですけども、やはり赤羽圏域といえども、下のほうと、桐ヶ丘のほう、それぞれやっぱり違うのかなという限界が出てくるのかなと思うと、それぞれ今活動されている包括ごとで行われている、協議体でこれが多くなってきたという報告もあって、すばらしいなと思うんですけども、各包括で、うちの包括ではこういうことを始めたよとか、いろんな北区の中での好事例集をどんどん出ることによって、お互いが相乗効果が生まれてくるのではないかなと漠然として思いました。

【会長】

ありがとうございます。この件、何か社協さんあるでしょうか、好事例をいろいろ集めたりとか、皆さんで共有するような場というのは何かございますでしょうか。

【委員】

生活支援コーディネーターは、体制整備事業連絡会というところで、およそ2か月に一遍ぐらい集まって、そういうような事例を報告し合ったりというような機会はあるんですけども、ちょっと16もやはりあるので、なかなかきちんと見える化ができず、せっかくそういうすてきな事例があっても、ちょっとそのノウハウのところまで掘り下げるところが今できていないのが現状です。そういうこともあって、フェイスブックというのを私も使ってみたんですが、いかんせんこんな数字でごめんなさいというところで、ちょっと来年度その辺の工夫ですとか、あとはやはり先ほど委員のお話も伺っていてとても思ったんですけども、やはりこういうふうになんかちょっとお話をすると、やはり地域の方々にはこんなこういうすてきな事例があるよいうのを教えていただくことが、さらにその好事例を、またさらにいい形に導いてくださるものだと思うので、ぜ

ひそういうのをちょっと見える化して、皆さん方の話合いの場に持っていけるような工夫もこれから考えたいと思います。ありがとうございます。

【会長】

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

ちょっと、私のほうから。先ほど話題提供の中で、大学との、東洋大学さん連携の話が出たかと思います。これは地域包括の運営協議会的时候でも出ていたんですけども、やっぱり継続性が問題だということで、これは1点ちょっとお伺いしたかったのは、やっぱり学生さんが多忙だと、お忙しいということをお話ししていたんですが、多分これは学科にもよると思うんですね。福祉ですとか、看護とか実習があるような学科は非常に確かに忙しくて、もう関わったとしても半年とか1年でさようならということが多いかと思うんですね。一方、学科によっては割とゆっくり活動ができるところもあるかと思いますので、その辺りの学科とのパートナーの、忙しさというのも学科によって違っているようなところも考慮されたらいいのかなと思いました。

あと1点、やっぱり高齢世代の方と、学生さんでどう共通の楽しみを見いだすかというところなんですけど、お話を伺っていると、逆に大学生のサークル活動の中でも、高齢者とかなり趣味が共有、好みが共有しているものがあるんですね。例えば、ほかの地域なんかで以前聞いたんですけど、例えば落語の落研さんなんかですと、大学生の落研と地元の高齢者でやっぱり落語にちょっとトライしたようなところがマッチして、一緒に練習したりとか、一緒に演題をやるとちょっと出番も半分で学生さんも済むとかいったようなことで助かったりとか。同じように、例えば囲碁とか将棋とか、そういったものなんかも全ての世代で練習したりというようなことができるというようなこともあるかと思います。また長野の事例ですかね、音楽のレコードの活用で、これはたまたま私も先月でしたか、長野のほうへちょっとあるシンポジウムで伺ったとき、本当にその好事例をご紹介されて、ああこれさすが北区の社協さん、いち早く取り入れられたかなと思っていました。確かに音楽は、特に今昭和、令和のなんていうか、テレビの番組でも昭和レトロをいろいろ意識したような番組とか、あるいは音楽なんかも結構がピュラーになってきているわけですし、特にビートルズとか先ほどのそういった世代問わずメジャーな音楽なんかもありますし、そういったものをあえて、アナログのレコードで聞くというようなことなんかは、結構学生さんにもウケるようなんですね。ですから、そういったものを例えば大学でのいろんな取組とのコラボの中でも、カフェでもレ

コードを楽しむとか、あるいはジャズを楽しむなら、ジャズ研究会みたいなのところもあるわけなんでね。何か、そういったところでのプログラムの共有というのもありかなと思いましたし、やっぱりそういう音楽でも、カフェ形式で学生さんとコラボして、そういう学生さんの趣味のものともコラボすれば、定期的な開催にもやっぱりつながると思いますので、そういった発展もあるかなと。

申しましたようなプログラムというのは、基本的にシニアの方にとってはいわゆる脳の活性化といいますか、歌ったり聞いたり、あるいは考えたりみたいなのところで、やはり認知症の予防としても非常に人気のあるプログラムですので、何かそういったもう一つ、どういったプログラムなら相性がいいかなということを考えられるのもいいかと思います。もちろんダンスとか、エクササイズというのも非常に社交ダンスとか、ああいいうのもシニアの方もいいかと思うんですけど、そこはやっぱりちょっとけがとか、その辺のこともありますので、やっぱりしっかり、それこそセラピストの先生方に監修していただくとか、ちょっと勉強しながらなら運動系のものなんかも一緒にできるんじゃないかなと思いましたので、ぜひまた何かそういう機会があれば次にまた教えていただければと思います。以上です。

委員、お願いいたします。

【委員】

今日は、いろいろな本当に事例とかも教えていただいて、大変勉強になりました。ありがとうございます。

生活支援コーディネーターも委員がおっしゃったように、いろんな活動を本当に行っています。連絡会でも報告をしてくれてすごいと思いながら、私もそれをちょっと部分的にまねさせてもらったりというのはお互いにいろいろやっている、今続けて、ずっと引き続き続いているというような状況です。

本日あったように、子ども世代、委員にはベーゴマクラブで、豊島のほうは多世代交流というのが昔遊びを通じて、80代の方と子どもの交流というのがなされていて、すごくいい事例が、いい活動ができたので感謝しているんですけど。いろいろなきっかけ、入り口があれば、それをさらに引き続きつなげていく、やり続ける最初の入りを生かしていくみたいなのところが私たちコーディネーター、次の課題にも今なっているなと感じています。

そこでコーディネーター、各圏域16包括で1人ずつおりますが、なかなか情報一つ、

ここでこんなにすばらしい活動をしている、じゃあそれを掲示してとか、いろいろな報告はするけれども1人の報告の方法も工夫しないといけないんですけど、なかなかそれをいろんな人につなげていくというのは、やっぱり限界が、やはり生活支援コーディネーター1人ではというところはあったりしていて、いろんな活動を今なされているのをどうやって多世代ということも、高齢者だけという認識はもうほぼほぼなくなってきているのかなというところで、いろいろな子ども世代、最初から集まる集い場をつくるに当たっても、最初から児童館の先生とかにも来てもらって、親世代、親子でかつ、まだ何か行き場を探しているような人たちも高齢者も一緒に同じ集い場を集ってしまったら、逆にいいのかなとか、いろいろな方法があるかなと思って、そういった視点で生活支援コーディネーターは、高齢者だけじゃなくという視点で、これからも活動が続けていけたらなと思っていますので、今後本当に重層的支援体制整備事業というのも、北区のほうもちょっと考えていただきながら進められたらなと思います。

【会長】

ありがとうございます。

そろそろ時間になってまいりましたので。本当に今、委員おっしゃいましたように、もう包括さんだけでは、あるいは生活支援コーディネーターだけでは難しい部分もありますし、また逆に今日のような好事例をたまたまやっぱりアンテナ張っていらっしゃる社協さんだから、いろんな地域から情報発信をもらってこられたと思うんですけども、やっぱり多くの好事例というのが、実は介護予防とか、高齢福祉の領域から発信しているメニューではないんですね。先ほどのコミュニティシートにしても、クラシックレコードを聞くにしても、例えば長野県でも生涯学習の分野でかなりブレイクしたものを、生活支援コーディネーターさんと連携してやっていらっしゃるということで、そういう意味で、北区でそういう情報の発信とか情報の受皿として、何が的確かな・・だというのをちょっと考えましたところ、例えばきらりあ北さんのような、就労的な活動から様々な社会参加の促進を認識するようなセンターがちゃんとあるわけですので、そのもう少し機能の強化というか、情報を集めてきたりとか、それをまた同地域に、地区のコーディネーターさんとかにも、どういう使い方がいいですよとか、どういうプログラムがいいですよみたいなことも相談できるような、そういう機能を持てば、受皿としてはきらりあ北さんなんか非常に期待できるんじゃないかなと思いましたので、そういう実際の情報の収集とか発信のことをまた考えていただければと思います。

どうもちょうど時間となりましたので、今日の議題のほうは、以上とさせていただきますと思います。

では、一旦事務局にマイクを戻したいと思います。

【事務局】

ありがとうございました。それでは、事務局のほうから1点、皆様にお願いがございます。

令和6年度のおたがいさま地域創生会議の委員の改選の時期となって、今ございます。できましたらば、これまでも様々ご議論をいただいております皆様に引き続きお願いしたいというふうに思っておりますので、どうぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。後日、改めまして事務局より引き続きのやっていただけるかということでお伺いをさせていただければというふうに思っております。

もし難しい場合には、後任の方のご推薦をご協力いただければ幸いです。また併せまして、ご支援、ご協力のほうを賜りたいと思っております。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

事務局からは以上でございます。

【会長】

ありがとうございます。それでは会議を閉じるに当たりまして、副会長であります村野部長から一言お願いいたします。

【副会長】

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。それから前の会議からご参加の皆様、またご報告をいただいた皆様、大変お疲れさまでした。

この会議の目的の一つは、高齢者あんしんセンターですとか、生活支援コーディネーターの活動といったものについて情報共有して、今後の取組の充実を図るものと捉えてございます。レコードの話ありましたけど、そうだよなって私も思いましたし、すぐろくのお話も面白い取組をご紹介いただいたと思っています。また、各圏域からの報告については活動の確信というか、よりどころといったものを感じた次第です。

現在コロナ禍が終わって日常が戻ったと言われてはいますが、しかしその一方でこの前の会議でもいろいろありましたが、担い手がいなくてとか、スキルがなくなったという話を至るところで耳にしています。確かにコロナが終われば元どおりとは思ってはいませんでしたけれども、社会や経済情勢、また新たな技術ですとか、価値観が出

てくるなど、もしかしたらコロナのときよりも先が見通せない状況になっているのかもしれない。しかし、今求められているのは、ぶれることなく、これまでの取組を時代にうまく適応させながら進めていくことだと思います。

本日、各圏域からの報告のテーマでもありました、地域のつながりですとか、交流、地域課題との向き合いといいますか、そういったものはその一つで、区が進める様々な施策のよりどころでもあると思っています。

今後、社会がどのような形になるのか分からないところが多い状況ではございますけれども、皆様と区が共通の認識に立って、取組を進めていかなければならないと思っています。

もうすぐ新年度となります。区の体制も新たなものとなりますけれども、皆様との連携・協力を軸に、地域包括ケアを推進していく考えでございますので、引き続き皆様の積極的な取組と、高齢、障害、子どもなど、区の福祉施策についてご協力をいただけるようお願いを申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

誠に、ありがとうございました。

【事務局】

それではこれもちまして、令和5年度第2回おたがいさま地域創生会議を終了させていただきます。

長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。お疲れさまでございました。